

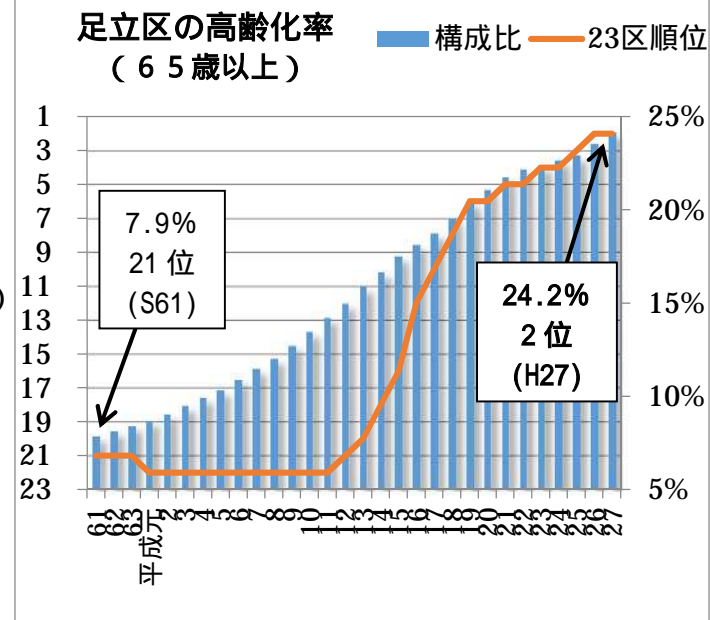
足立区新基本構想策定のための検討素材【概要版】

区を取り巻く大きな変化

人口

・高齢化率 24.2% (23 区中 2 位)

- ・年少人口の割合は 12.3% (23 区中 4 位)
- ・生産年齢人口の割合は 63.6% (23 区中最下位)
- ・合計特殊出生率 1.36 (23 区中 2 位)
- ・近年は、毎年約 30,000 人が転入。
うち、都内から約 12,500 人、埼玉県から約 4,500 人。

足立区の高齢化率
(65 歳以上)

子ども

- ・年少人口の割合は減少 (20.3% (S60) → 12.4% (H26))
- ・待機児童は 322 人 (H27) 保育施設定員数は年々増加 (H14 以降 3,441 人増加)
- ・基礎学力が身につけている児童・生徒の割合は向上している
- ・児童扶養手当受給者数は 20 年前の約 2 倍 (3,860 人 (H6) → 7,335 人 (H25))

くらし

- ・犯罪の発生件数は減少傾向 (14,487 件 (H16) → 7,561 件 (H26))
刑法犯認知件数では 23 区内では 6 位 (平成 23 年度は 1 位)
- ・要介護認定者数は増加傾向 (11,531 人 (H12) → 29,339 人 (H25) 2.5 倍)
- ・生活保護世帯数及び保護率は増加傾向
(生活保護世帯数 7,500 世帯 (S60) → 18,724 世帯 (H27 年 3 月))
(保護率 2.37% (S60) → 3.74% (H27 年 3 月))
- ・ごみ収集量は減少傾向 (174,560 t (H16) → 139,569 t (H26))

まちづくり

- ・交通空白地域面積は減少傾向
- ・緑被率は平成 6 年度以降、微増 (15.7% (H6) → 17.1% (H21))

経営改革

- ・職員数は S57 以降減少 (5,853 人 (S57) → 3,383 人 (H26))
- ・人口千人当たりの職員数は 23 区中最も少ない

区取り組み成果

エリアデザインによるまちの魅力の創出
コミュニティバスの運行や日暮里・舎人ライナーの開業、T
Xの新駅設置による交通空白地域の減少
燃やさないごみや粗大ごみの資源化率の向上
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」による治安の改善
「孤立ゼロプロジェクト」による地域での見守り活動の推進
「ベジタベライフ運動」や「糖尿病アクションプラン」によ
る健康づくりの推進
ジェネリック医薬品の普及促進やレセプト点検による医療
費の抑制
小学生の基礎学力の向上
おいしい給食による残菜率の低下
都市型農業の推進
シティプロモーションによる発信力の向上
計画的な職員数の削減と人件費の抑制
公共施設の適正な管理の推進

区が現在、力を
入れている取組

「子どもの貧困対策
本部」の設置
「足立区版地域包括
ケアシステム」の構
築
待機児童ゼロ対策
地下鉄 8 号線 (有楽
町線) の整備促進

区民意向と区政に対する満足度

定住
意向

- ・定住意向は約 76%。区に愛着を持っている人は約 77%
- ・「愛着」「誇り」「人に勧めたい」はそれぞれ H26 が最高値
- ・愛着や誇りを持ってない理由の自由回答で多かったのが「治安・防犯」「足立区
のイメージ」「住宅・住環境・住みやすさ」

満足度
重要度

- ・満足度の上位は「資源環境対策」「情報提供」「保健衛生対策」
- ・重要度の上位は「防災対策」「治安対策」「交通対策」

子ども

- ・子育て環境が整っていると思う人は約 47%で横ばいだが、「整っていない」と
思う人は減少傾向

くらし

- ・居住地域の治安が良いと思う人は約 48%で上昇傾向
- ・ビューティフル・ウィンドウズ運動の認知度は約 41%で上昇傾向
- ・高齢者の見守り活動への協力意向は約 18%

まち
づくり

- ・通学や交通の便が良いと思う人は約 69%で上昇傾向
- ・景観・街並みが魅力的になってきていると思う人は約 36%で減少傾向

経営
改革

- ・区民と協働して事業を進めていると思う人は約 28%
- ・区政に区民の意見が反映されていると思う人は約 27%